

◆ 今週のコメント

- 手足口病の定点当たり報告数は、1.33(52例)で、前週(1.65)に比べ減少しましたが、依然として過去5年平均値を上回っています。全国では、第28週(7月11日～7月17日)をピークに減少していましたが、第33週(8月15日～8月21日)以降、横ばい状態が続いています。今後も動向に御注意ください。
- 水痘の定点当たり報告数は、0.46(18例)で、前週(0.28)に比べ増加しました。年齢階級別では、2歳が8例(44.4%)と最も多くなっています。
- ヘルパンギーナは、第28週(7月11日～7月17日)をピークに減少していましたが、第36週の定点当たり報告数は、前週と同じ0.38(15例)でした。
- RSウイルス感染症の報告数が、3例あり、第27週(7月4日～7月10日)以降、連続して報告がありません。全国でも、過去5年平均値を大きく上回り増加していますので、今後の動向にご注意ください。
- 定点医療機関(右京区)の変更があり、インフルエンザ定点数が67から66に、小児科定点数が40から39に、変更になりました。

◆ 今週のトピックス: <突発性発しん>

突発性発しんの定点当たり報告数は0.56(22例)で、第31週(8月1日～8月7日)以降、過去5年平均値を連続して上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類:結核 9例(肺結核 7例, 肺外結核 1例, 潜在性結核感染者 1例), (喀痰塗抹陽性 2例)
【1月以降の累積報告数 331例(肺結核 164例, 肺外結核 62例, 潜在性結核感染者 105例), (喀痰塗抹陽性 81例)】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点66, 小児科定点39, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.15	84
	② 手足口病	1.33	52
	③ 突発性発しん	0.56	22
	④ 水痘	0.46	18
	⑤ ヘルパンギーナ	0.38	15
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

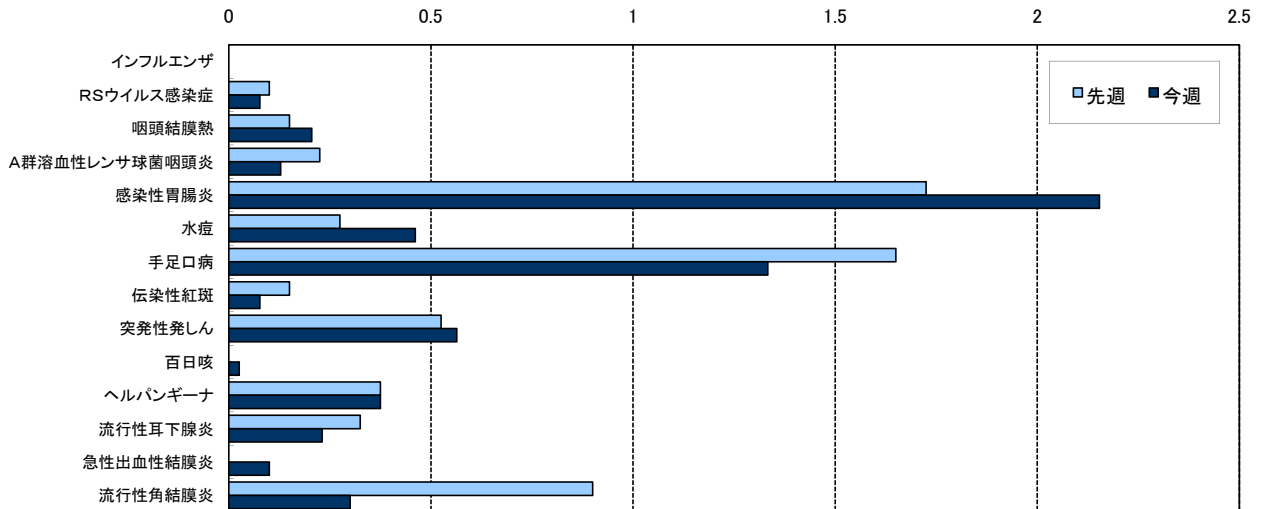
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <突発性発しん>

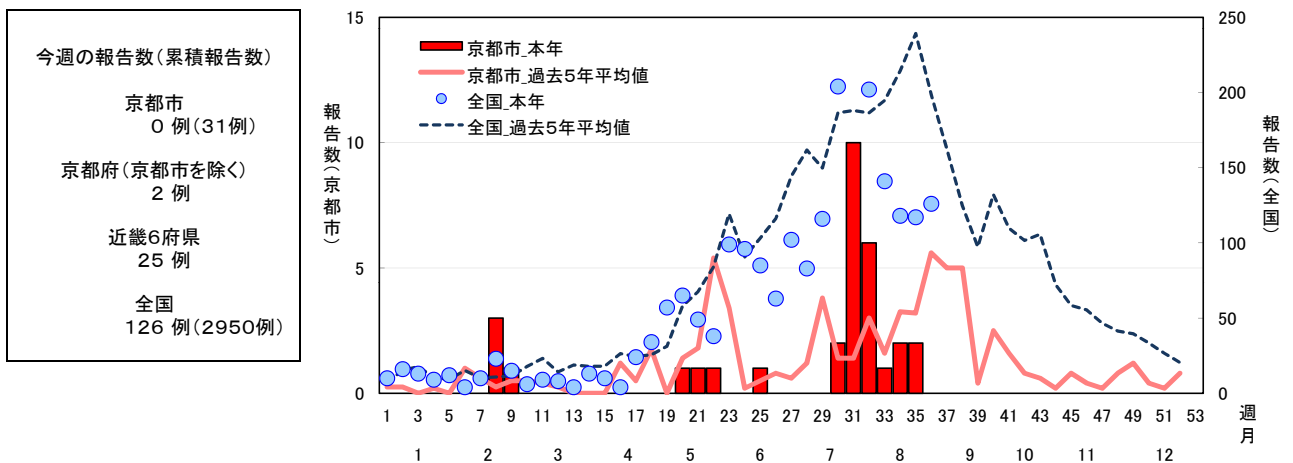
(注)京都市のデータは、平成23年9月15日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第36週)と先週(第35週)の定点当たり報告数の比較

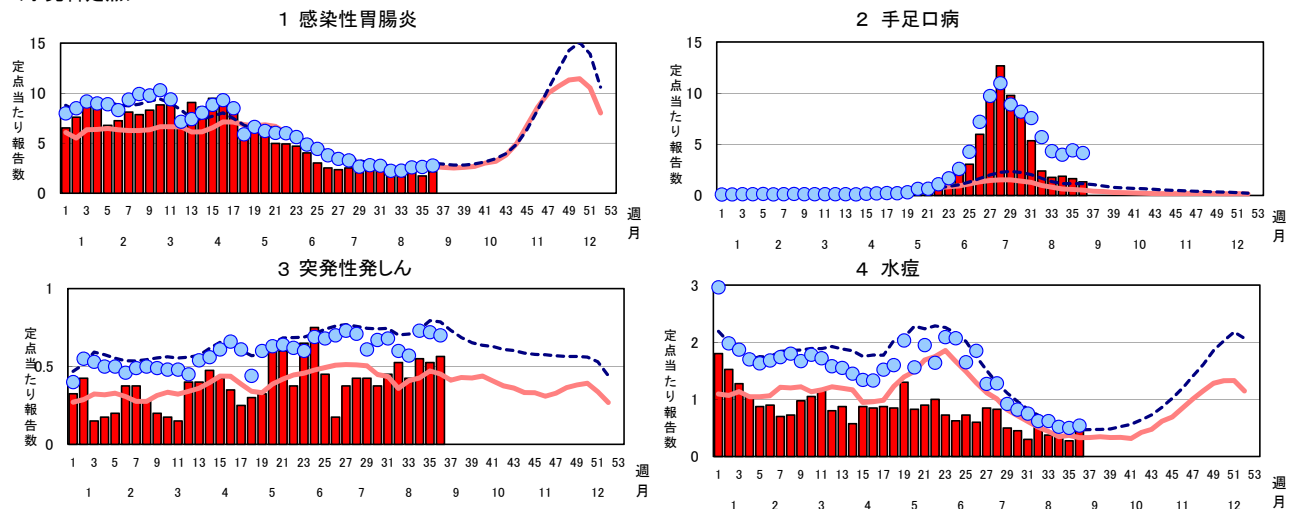


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

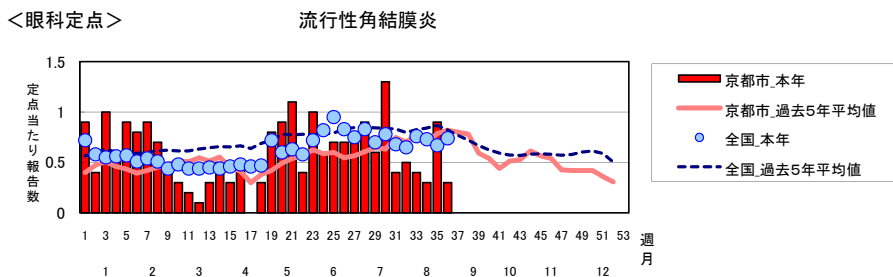


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第36週(9月5日～9月11日)トピックス: <突発性発しん>

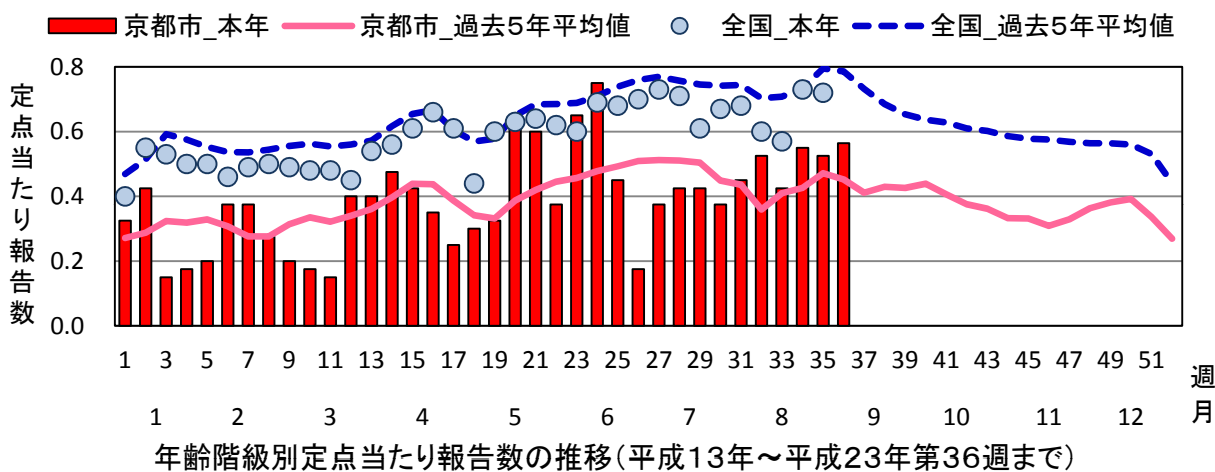
定点当たり報告数は0.56(22例)で、第31週(8月1日～8月7日)以降過去5年平均値を連続して上回っています。

年齢階級別では、0～5箇月が2例(9.1)、6～11箇月が9例(40.9%)で、1歳未満が計11例(50.0%)、1歳が10例(45.5%)となっています。

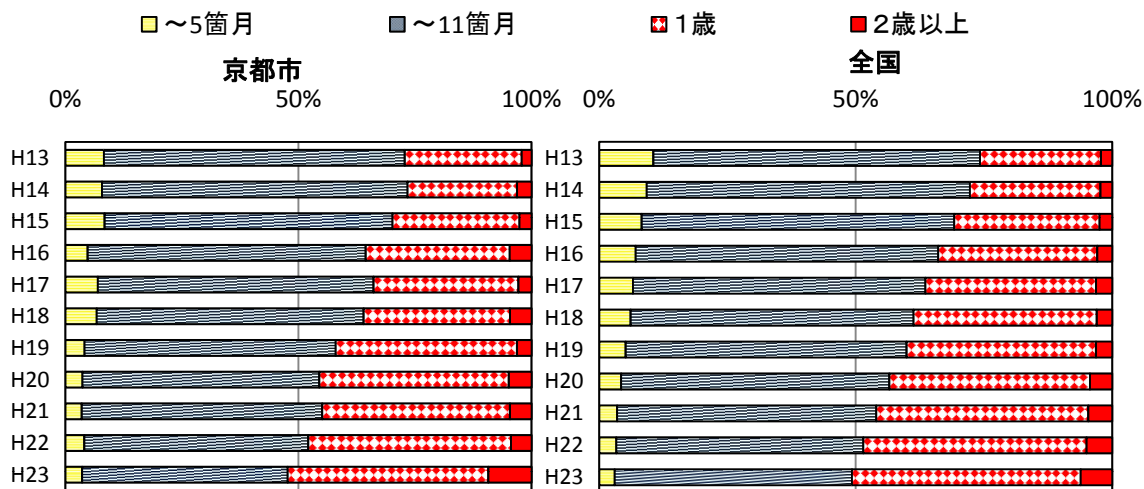
平成13年から年齢階級別定点当たり報告数の推移をみると、京都市、全国ともに、1歳以上の占める割合が増加しています。

行政区別にみると、南区、西京区、伏見区で、多くの報告があります。

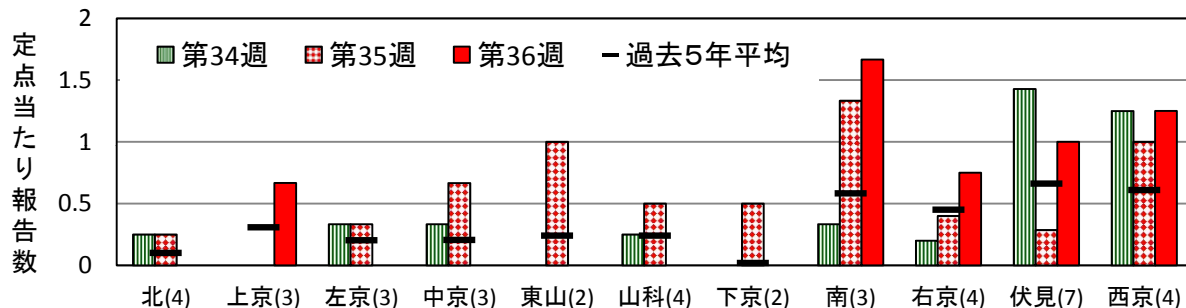
本市及び全国の定点当たり報告数の推移



年齢階級別定点当たり報告数の推移(平成13年～平成23年第36週まで)



行政区別定点当たり報告数の推移



* ()内は各区の定点医療機関数